

# 感動と知る努力

1月31日に東京エレクトロンホール宮城(仙台市青葉区)で、新春恒例のいきいきSUNクラブ会員感謝祭「2013いきいきシニア初春の集い」が開催された。目玉の著名人講演会では、日本の古美術鑑定界の重鎮で、テレビ番組「開運! なんでも鑑定団」の鑑定士でもある中島誠之助さんが登場。歯切れのいい江戸っ子トークで約1時間半たっぷり楽しませてくれた。講演会前に控え室でお話を伺ったところ、気さくに応えてくれた。



profile

中島 誠之助 (なかじま・せいのみすけ) (75)

1938年東京生まれ。大学卒業後に遠洋マグロ漁船に乗り込み、海外を旅した後、60年から古美術商として鑑定に従事。76年、南青山に骨董品店「からくさ」を開き、古伊万里の魅力を世に広める。テレビ番組「開運! なんでも鑑定団」では94年の放映当初から鑑定士を務め、骨董ファンのみならずお茶の間の人気者に。「いい仕事してますね」のセリフで、96年にはゆうもあ大賞を受賞した。「骨董掘り出し人生」(朝日文庫)など著書多数。

## 真の値打ちは分かりにくいもの

東北地方へは温泉が好きでよく足を運びます。どの温泉を訪ねるか、宮城ならここ、山形ならここというように、東北各県で決まっていますよ。食べ物もね。どこかは内緒だけれど。

私たちにとっては「東北」という言葉自体が魅力。昔、ヨーロッパ人が日本を「ジパング」と呼んで憧れたように、上方の人々は東北や陸奥という言葉に、はるかな地への憧れを抱いてきた。平安時代の貴族も同じで、和歌に詠み込まれた「名取川」など、その言葉の響きにはそくりとエキゾチックなものがあります。

東北は、私にとっていまだに未知の場所。東北地方へは温泉が好きでよく足を運びます。どの温泉を訪ねるか、宮城ならここ、山形ならここというように、東北各県で決まっていますよ。食べ物もね。どこかは内緒だけれど。



講演会では、中島さん流の鑑定哲学やテレビでの鑑定エピソードなどを語った

人があまりものをしやべらない謎の民族だから。食も文化も、何もかもが自給自足で満ち足りている。自分たちの中に幸せを包み込んでいる。歴史や文化、風土にどうしようもない「厚み」を持っている。

それは目に見えるものではないから、古美術品の見方と同じで、その奥を見て判断しなきゃいけない。しかし、東北は知れば知るほど分からないんです。むしろ謎であつた方がいい。今の時代の流れに、無理に歩調を合わせなくていいと思つているんです。

### 内面的な力

形や色といった見かけの美しさは、一見、金目のものに見えます。しかし、本当の値打ちは分かりにくいもの。さほど技工は見られないけれど、なぜかこの作品には吸い込まれる、もう一度見てみたいと思わせるのが、真のお宝なのです。

いい物を数多く見ていると、その物に託された内面的な力、つまり作者がどんな気持ちで物作りに打ち込んだのが、分かってくるものです。見る目を養うには、ま

は変わりません。大切なものは、欲を捨てること。欲は目を曇らせる。虚心坦懐、山や海を見るように物を見ます。私はよく「偽物を作つて売つた方も悪いが、買ったあなたも悪い」と言うことがあります。買った方にも欲があるから。物を見る時は、もうけばかり考えず、素直な気持ちで。

本物が、偽物かの鑑定は一瞬です。テレビでは(鑑定品を覆つ)布を取り外した瞬間に分かります。「実は収録前に見てるんですよ」って言われますけど(笑)、そんなことはありません。写真や手紙は事前に拝見しますけどね。

ず人間性を高め、感性を磨くことでしょね。古美術品に限らず、風景や音楽など、幅広い分野でいい物に触れる。そして感動し、知るための努力をすることが大切です。

でもマニアックになつてはいけません。骨董(ごつごつ)ばかりに目が行つては、人間の幅が狭くなってしまつ。私は「捨て目をきかす」と言いますが、常に自分の中に空白の部分を持つておく。そして、失敗を経たお金の痛みを知るのも大事です。

あとは、過去にこだわらず、前進していくことが、美の発見につながる。っていくんでしょね。